

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>ベンチエ省ビンダイ郡の貧困世帯が持続的農業を実践し、食料自給を改善しながら、現金収入を得られるようになる。</p> <p><b>達成度：</b> 事業評価の結果から、持続的農業を実践した世帯の割合は、アヒル・鶏の肥育が 68%、家庭菜園が 75.2%、牛の肥育が 71.6%、全体の平均では 71.6%であった。また、アヒル・鶏の肥育によって現金収入を得られた世帯の割合は事業対象 5 村全体の平均で 76%、家庭菜園の実践によって野菜の購入額が減少した世帯は 96%であった。</p> <p>この結果から、持続的農業を学び、技術を実践している貧困世帯の割合は比較的高く、食料自給の改善や現金収入の増加に一定の成果があったと言える。しかし、一部の持続的農業技術については理解・実践ともにまだ不十分であり、貧困から完全に脱却するためにはさらなる能力向上が必要である。よって、上位目標は達成されているとはいえない。</p>
(2) 事業内容	<p>実施した事業内容について、以下に記述する。</p> <p><b>持続的農業技術研修：</b>事業対象 5 村にて、持続的農業研修を 33 回開催し、延べ 483 人が参加した。研修内容は、家庭菜園の改善、アヒル・鶏の肥育と病気予防、牛の肥育と病気予防である。</p> <p><b>アヒル・鶏銀行および牛銀行：</b>事業対象 5 村にて前年度に続き、村づくり委員会がアヒル・鶏銀行を管理・運営した。アヒルや鶏のヒナを借りた貧困世帯数は合計 123 世帯である。2014 年 11 月の時点で 75%の世帯がヒナ代を返済し、返済したヒナ代の割合は 72%であった。また、アヒルや鶏の肥育に成功した世帯が、持続的に貧困から脱却できるよう、事業対象 5 村に新たに牛銀行を設立した。村づくり委員会が設けた利用規則に同意し、牛を飼うことができる状態にある 32 世帯（チョウフン村ではアヒル・鶏銀行から借りる世帯が少なかったため、資本の一部を牛銀行へ移し、1 頭を追加で貸した）へ牛を貸し出した。2014 年 11 月の時点で 28 頭（87.5%）が妊娠し、3 頭の子牛が生まれた。なお、6 世帯で母牛が病気にかかり、2 世帯が母牛を処分した。この 2 世帯は村づくり委員会と協力して新たに母牛を購入し、肥育している。</p> <p><b>簡易貯水タンクの支援：</b>乾季の間も生活用水や農業生産用水として真水を確保し、年間を通じて農業生産ができるよう、61 世帯に簡易貯水タンクを支援した。</p> <p><b>経験交流・会合・モニタリング：</b>事業の開始時に対象 5 村およびビンダイ郡にて合計 7 回（フォーロン村は参加者数が少なく、計 2 回開催した）開催し、延べ 181 人が参加した。また、貧困世帯間の経験交流を事業対象 5 村で 5 回開催し、延べ 75 人が参加した。事業の終了時に事業対象 5 村およびビンダイ郡にて合計 6 回、評価会合を開催し、延べ 222 人が参加した。ビンダイ郡で開催した評価会合には在ホーチミン日本国総領事館の他、ベンチエ省人民委員会副首席やビンダイ郡人民委員会、対象村以外の村の代表などが参加し、</p>

	<p>活動の実施方法や今後の方針について、活発な意見交換を行った。この他、事業対象 5 村にて 44 回の月例会合・モニタリングを開催し、延べ 279 人が参加した。月例会合では、議事録をとり、前月からの進捗状況を確認しながら、生じた問題に対する解決策を話し合った。さらに、本事業を紹介するためのポスターを作成し、事業対象 5 村および対象村以外の村の貧困層へ配布した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>「期待される効果」の達成度について以下に記す。</p> <p><b>1. 持続的農業技術研修</b></p> <p>1-1. 持続的農業研修に参加した貧困世帯の 70%が内容を理解する。研修ごとに理解度テストを実施し、成果を測る。  <b>⇒達成。</b>理解度テストを集計した結果は、アヒル・鶏の肥育技術が 60.6%、アヒル・鶏の病気予防が 82%、家庭菜園が 51.8%、牛の肥育技術が 92.4%、牛の病気予防が 84.4%、全体の平均は 74.2%であった。</p> <p>1-2. 持続的農業研修に参加した貧困世帯の 70%が研修で学んだことを実践する。モニタリングでの聞き取り、および世帯調査によって成果を測る。  <b>⇒達成。</b>モニタリングにて実践状況を確認した他、経験交流会や事業評価にて調査票を配布し、参加者が記入した。結果はアヒル・鶏の肥育が 68%、家庭菜園が 75.2%、牛の肥育が 71.6%、全体の平均は 71.6%であった。</p> <p>1-3. 持続的農業研修で学んだことを実践した貧困世帯の 40%が食料自給を改善し、現金収入が増加する。モニタリングでの聞き取り、および世帯調査によって成果を測る。  <b>⇒達成。</b>モニタリングで聞き取りを行った他、経験交流会や事業評価にて実践状況を把握するための調査票を配布し、参加者が記入した。その結果、アヒル・鶏の肥育に取り組んだ世帯の 76%の現金収入が増加した。また、家庭菜園では 96%が野菜を購入する費用が減ったと回答した。</p> <p><b>2. アヒル・鶏銀行および牛銀行</b></p> <p>2-1. 各対象村にアヒル・鶏銀行および牛銀行の利用規則とリスク基金が設立され、貧困世帯が適切な時期にヒナや子牛を借りることができる。月例会合の議事録とモニタリングから確認。  <b>⇒達成。</b>各対象村で各銀行の利用規則が設けられ、貧困世帯に貸し出された。</p> <p>2-2. 各対象村のアヒルや鶏のヒナ代の回収率が 50%以上となる。月例会合の議事録とモニタリングにより確認。  <b>⇒達成。</b>2014 年 11 月の時点で、アヒル・鶏銀行に資本を返済した世帯は 75%、ヒナ代の回収率は 72%であった。最も回収率が低かったフォーロン村では村づくり委員会が返済を猶予し続けたため、借りた世帯の多くが返済しなくても良いと考えていた。フォーロン村の村づくり委員会が事態の改善に取り組まない場合、今後、新たな支援は行わない予定である。一方、2013 年に回収率が悪かったチョウフン村では、貧困世帯に事業の意義を説明し、分割で返済することを認め、毎月、集金を行った結果、回収率が上がった。</p>

	<p><b>3. 簡易貯水タンクの支援</b></p> <p>3-1. 活動に参加した 20%の貧困世帯の乾季の水不足が軽減される。モニタリング・世帯調査から確認。 ⇒<b>達成</b>。モニタリング時の聞き取り調査の他、経験交流会や事業評価にて実施した調査票の集計結果から、63.6%の世帯が乾季の水不足が軽減されると回答した。</p> <p><b>4. 経験交流・会合・モニタリング</b></p> <p>4-1. 各対象村の貧困世帯がグループをつくり、技術交流や市場の情報交換が行われるようになる。モニタリング・世帯調査から確認。 ⇒<b>未達成</b>。モニタリングや経験交流会開催時に、貧困世帯の間でアヒルなどの肥育技術や市場の情報交換が行われている様子が把握できたが、グループをつくるまでには至らなかった。</p> <p>4-2. 対象村以外の地域が本事業に関心を持ち、実践を希望する。計画立案会合と評価会合の議事録より成果を測る。 ⇒<b>達成</b>。計画立案会合および評価会合ではビンダイ郡内の対象村以外の 5 村が本事業の内容および実施方法に関心を持ち、実践希望が出された。また、ベンチエ省労働・傷病兵・社会局が本事業の内容を他郡にて実践することを検討している。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業の対象 5 村のうち、2013 年にアヒル・鶏銀行の管理・運営がうまくいかなかった 4 村では村づくり委員会が貧困世帯へのアプローチの仕方を工夫するなど、改善が見られた。そのため、ヒナ代の回収率が上昇し、多くの貧困世帯がアヒル・鶏銀行にアクセスすることができた他、貸出時にきちんと貧困世帯とコミュニケーションをとったことで、ヒナ代の高い回収率を達成した。このことから、村づくり委員会が確実に経験を積んでおり、今後も貧困世帯へ適切な支援を行っていくことが期待できる。</p> <p>また、本事業に参加している貧困世帯はアヒルや鶏の肥育を自力で行う他、牛の肥育に挑戦し、病気などのリスクが生じた際にも自助努力により解決している。彼らは確実に自信をつけ、自ら工夫して生活改善に取り組むようになってきている。貧困世帯が自らの力を発揮することで貧困から脱却できる良い事例として、他の貧困世帯や他地域に紹介することができる。</p> <p>さらに、ベンチエ省人民委員会やベンチエ省労働・傷病兵・社会局、そしてビンダイ郡人民委員会など行政機関が本事業の手法をより深く理解し、他地域に応用していくことを検討している。今後、本事業の経験が他地域に活かされていくことが期待できる。</p>